

(髪の毛たなり上司に命じられ、ホテルの一室で朝まで)

(トラック①)

(中・近)

(低く抑えたトーンで)

ふふ……じゃあ、始めようか。

君が“誠意”として差し出した身体――

上司として、しっかり受け取ってやるよ。

(少し笑って)

……高級ホテルの前で、営業部の部長と――

若手社員が並んで立つてる光景なんて、

どう見ても不自然だろう？

ふた回りも年上の上司が、

若い男をこんな所、呼び出して……

ふふっ、爛れた関係に見えて当然だ。

まあ、実際その通りなんだが――

(間)

ふふ……でも、仕方ないだろう。

昨日の君のやらかし――

なかなか派手だったからな？

重大な契約書、

よりによって競合先に“まるごと”誤送信。

(右・近)

情報流出っていうのはな――

今の時代、企業にとって致命傷だ。

私が必死に火消しをして、

社内にも外部にも頭を下げた。

正直、あれだけの尻拭い――

“無償奉仕”ではやってられない。

だから、今日は君に支払ってもらおう。
その身体で—— しっかりと、な？

（くすりと笑って）
ふふっ、安心しろ。

これでも私は、“クールで部下思いの上司”って
社内では評判だからな。
それなりの“手心”は加えてやるつもりさ。

—— たっぷり、快樂と絶望を混ぜてな。

（間）

私の性癖、知ってるだろう？
若いオスをホテルに連れ込み、
ふたなりちんぽで——
心もケツ穴も、バラバラになるまで壊すのが、
この上なく“大好物”だな。

—— 君は、食材として実に優秀だよ。

（右・近）

ほら、
私のふたなりチンポが
スーツ越しにもっこりしてるの、
わかるあるか？

部下を連れ込むのが
たまらなく嬉しくてなあ
我慢汁、染みになってるぞ？

理性的で優秀だった部下が、
これから獣のように鳴かされる——
それだけで、
私のちんぽは既に“射精寸前”だ！

(中・近)

さ、入るぞ。

このホテルは――

私が“君みたいなオス”を調教するために、
何度も使ってる、馴染みの場所だ。

今日は朝まで、

出られないからな？

(中・近)

ふふっ……君のような生意気な若いオスが、
過去にどれだけこの場所で、
何度泣きながら射精させられてきたか――
知ってるか？

ここは私の調教履歴書そのもの。

私のふたなりちんぽに
抱かれた愛おしい玩具たちが
何人も何十人も、
この部屋で壊されてきたんだ。

“忌まわしい”か……？・ふふっ。
マゾオスが育つには、最高の環境さ。

でも安心しろ。

今日の主役は、君だ。

(少し低く脅すように)

君が「責任を取ります」って言った瞬間、
君の価値は――

私の性欲処理対象に変わった。

私の金玉にパンパンに詰まったザーメン、
ゼーンぶ搾り取れるまで、

このホテルからは出られない。

(右・近)

覚悟しろよ？

責任って言葉を安く口にした代償を、
その体で、朝までたっぷり——払ってもらおう。

(中・近)

さあ、チェックインだ。

ここは“VIP 専用 SML ルーム”がある、
極上のオス調教ホテル。

私が仕込んだオス共も、

ここで泣いて絶叫して、イカされて、
二度と社会復帰できなくなったんだ。

(吐き捨てるように)

……君も、同じ道を歩めるよ。

音が漏れない防音室。

エグい調教器具。

逃げ道のない鉄の扉。

そして、何より——

君を壊すために、私のでかふたなりチンポがある。

(右・密着)

ふふーん……震えてるのか？

可愛いな。

でも、そんな震えよりも——

私のちんぽがジキビキ勃起している
振動の方が激しいかもな

ほら、受付嬢が持ってきてくれた辛辛苦

特製の“奴隷用首輪”。

これは、君の“立場の証”だ。

(目を細める)

さあ、付けてやる。動くな。

……なんだ、その顔。

羞恥？ 恐怖？ プライド？

全部いらない。

君に必要なのは、

“服従”だけだ。

(中・近)

よし、じゃあ——全部、脱げ。

(間)

……何だ、聞こえなかったのか？

(ゆっくりと読む)

全部……脱……げ

(右・密着)

(やや低音で)

拒否するなら、今ここで押し倒して犯す。

ホテルのロビーで——受付嬢の目の前でな。

どっちがマシか、選ばせてやろうか？ ん？

(中・近)

ふふーん、まったく……

□世代は打たれ弱い。

ちよつと追い詰めただけで……涙目だ。

顔がピクピクして、腰が抜けてる。

情けないねえ——でも、良い顔してるよ？

(右・近)

いいか？今日の、私は“指導”してるんじゃない。

“命令”してるんだ。

君は、私の命令には逆らえない。
それが、

ここでのルールだ

今夜の支配者である——私のルールに従え。

（間）

さっさとその服、脱げ。

じゃないと、

二度とスーツなんか着られないくらい

ふふ

骨の隋まで、

犯し尽くしてやるからな？ ふふふ。

（中・近）

（嘲笑気味に）

あーあ、チヨロすぎる。

ちよつと“躰け”しただけで

ガクガク震えて、

ボタンを一つずつ——

まるで処刑前の

死刑囚みたいに外してる。

そんなに怖いかな？

私の“支配”が。

ふふふ……良い顔だ。

（間を置いて）

ほら、受付嬢も見てるぞ？

“営業部のザコ社員”が、

パンツ一枚で羞恥晒してる。

半笑い、いや、軽蔑に近いな。

それで？ まさかとは思うが――

パンツは“免除”されると思ってたのか？

（右・密着）

（耳元で、低く）

誰が“あまえ”を許可した？

上司であるこの私の手を煩わせて、

その情けない布切れすらも

脱がせてもらおうってのか？

（ドンと膝蹴り）

――ほら、甘えるな、クズが。

おーおー、情けない声。

ちんぽを蹴り上げてやったら…

ウホッ、って…大以下の悲鳴だな？

（中・近）

覚えとけ。

私は「脱げ」と言ったら、

全部脱げ。

中途半端な反抗は、

制裁の対象だ。

反論？ 否認？

そんなもん、私の前では無効だ。

次、躊躇したら――

本気で玉を潰すからな？

（やや間を置いて）

おーおー……

いいねえ、

震える手で、ビクビクしながら

パンツをゆっくり下ろして……

（クスツと笑って）

お披露目、完了だな。

ほお…

……小つぎ。

（冷酷に）

垂れ下がって、

まるで寒さで縮こまった

みじめな肉片。

それでも、男の“プライド”とか、
持ってたんだよなあ？ 君。

でも現実はこちら。

そのブラブラ情けないチンポ、

上司の前でビンビンに立つどころか、
自分から萎え晒して屈服してる。

——よし、いいだろう。

（右・近）

私の性処理奴隷として、
君に“就任記念品”を進呈しよう。

——首輪だ。

（首元にカチャリ）

ふふっ。ほら、ほら、ほら。

（中・近）

——いい顔したな。

首輪がはまった瞬間、

“もう逃げられない”って理解したんだろ？

まるで家畜。

いいや、オス奴隷だな。

その情けない顔、
今すぐにでも、
ギンギンチンポで作りまくってるザーメンを
ぶっかけたいぐらい、そそる。

(やや右・近)

ふふ

ふたなりの性欲、
甘く見るなよ？

一日何回も抜かないと、
理性が壊れそうになるくらいなんだ。

(右・密着)

当然、君でシコったこともある。
会社のトイレ、会議前の空き部屋、
資料室、社用車の中。

(ゾクつとききやき)

君の不遜な顔。
いつか口まんこに変えて、
ちんぽぶち込んでやる——そう思いながら。

この整ったオスガキの顔で
射精を妄想するなんて
最高のオナネタだったよ？

でも今日は“実物”がある。

合法で、

正当な手段で、

——犯せるんだからな？

たまらない♡

(中・近)

ふうう

ふうう

……ちんぽが、疼く。

立ちすぎて痛いくらいだ。

ふむ

このままスーツを汚すわけにはいかないから――
よいしょ、

私も

スポン脱ぐぞ…

よいしょ

ほーら、見えるか？

パンツ越しでも浮き出るこの“モノ”。

君の4倍はあるぞ？、ふらっ。

ほら、

全部、脱ぐぞ？

ほーーれ

うふっふ

出てきたなあ、“本物”が。

(間)

じゃあ、さっそく……

キスをしろ。

(右・近)

わかるだろ

ちんぽに、だ。

（静かに命令）

丁寧、愛おしそうに、
ちゅっちゅと、キスを添えてみる。

格上の上司の勃起ふたなりちんぽに
キスするのは、

部下として“最低限の礼儀”だぞ？

（低音で）

やれ。

今すぐに、やれ。

（中・近）

おーおー、ふふーん。

おっかなびつくり、震える唇で

私のふたなりちんぽに、ちゅっ……って、

——キス、したな？

そんなたどたどしい

“ご挨拶”じゃ、

私の嗜虐心、逆撫でするばかりだ。

ほら見ろ、ちんぽの血管がビクビクして、

パンパンに膨れ上がってる。

勃起が止まらないんだが？

君は……

どこまで私を勃たせれば気が済む？

（右・近）

……ふふーん、

責任、取ってもらうぞ。

では——首輪に繋いだこのリード、
引っ張ってやる

ほら、四つん這いだ。

オス犬みたいに、地面に手をつけ。

ちよつとでも膝を浮かせたら、

即ちんぼ蹴り——それが躡けのルールだ。

君はこれからプレイルームまで、

四足歩行で“しつけ散歩”だ。

途中で人に会ったら？

そりゃもちろん——

犬のちんちんピクピクフリフリポーズで…

ご挨拶♡

実行できない場合は…

教育として、

その情けないチンポ金玉を

私のヒールの先でグ〜リグリ

踏みつけて見つけて

正しい“作法”を叩き込んでやる。

ふふーん、

当たり前だろう？

私は“上司”なんだからな。

しつけのなっていないザコオス社員は、

私が責任もって——調教してやらないと。

（やや右・中）

よし、動け。

1、2、1、2……ッ。

犬みたいに、ケツ振って四足歩行で歩け！

目線は低く、

態度も低く、チンポだけがピクピク高く。

(中・近)

ふふっ……エレベーターはすぐそこだ。
今夜は——いや、“今から朝まで”、
君のすべてを性処理に捧げてもらう。

しゃぶって、

啜えて、壊されて、

朝までに

何度、

ふたなりチンポに使われるか、
数えておけよ？

……“従順なマゾオナホ”になるまで、
何度でも犯してやるからな♡

(ゆっくりと長く)

わかったか？

(トラック②)

(嬉しそうな感じで)

(中・近)

ふふっ、

なかなかやるじゃないか、ザコくん。
最初はビビり散らしてたのに——

今は立派な“マゾ犬”だ。

よっん這いで、

チンポぶら下げながら、

私に引かれて歩く姿……

哀れなペット……そのものだったな

(楽しみに)

しかも運が良いことに、

エレベーターで鉢合せたのが——

あの経理の佐藤さんと、
統括部長の不倫ペア♡

ふふーん、
社内ゴシップの生き証人たちだ。

(右・近)

その二人の目の前で、
君が情けなしいポーズで
粗チンフリフリ♪
犬のちんちんフリフリ♪
ヒクヒク、ピクピク、
そちん勃起を見せつけて♡

(くすくす)

あまりに間抜けすぎて、
逆にその場の空気が和んでしまった。

ふふっ……

場を和ませる優秀なマゾ部下。
営業職に向いてるかもな？ 君♡

(中・近)

じゃあ、よく頑張ったご褒美に……
これを使ってやろう。

(ビニールの擦れる音)

黒いラバーの、ケツ責め専用手袋だ。
——“ケツコキグローブ”。

ふふーん、私のチンポ、
見ての通り極太だからな。

いきなり突っ込んだら、
君のマゾケツ穴なんて、
裂けて血まみれになってしまう♡

だから、まずは“入念に”、

マゾケツをストレッチしてやらないと、な？

(右・近)

(ねっとりと囁く)

指心本、ハ本、手のひら。

どこまで“ほぐせるか”試そうじゃないか。

(中・近)

さ、早く。

四つん這いになれ。

——今ここで、ホテルの廊下で、

いやらしいお尻突き出して、

ケツ穴責めの“準備運動”だ。

ふふーん、

今夜は“ふたなりちんぽ”との

セックスマラソンなんだからな？

あまりもたもたしていると——

ちんぽの代わりに、

拳をぶち込むことになるかもしれないぞ♡

(中・中)

ほーら、よつん這い、よつん這い、

ふふーん、いい子だ。

上司に命令されて、尻突き出して、

しっかり“マゾの構え”ができている。

いやらしいなあ、

そのアスタリスク。

まん丸で、ピクピクして……

まるで……犯される準備完了って顔してる♡

（ちょい嘲笑気味に）

ヒクヒク、ヒクヒク――

アスタリスクで

敬礼中ってわけか？

オナホマゾとしては優秀だな

でもな……

（叩くービシッー！）

ケツの位置が低い。

（中・中）

誰が“脱力マゾポーズ”を許可した？

私は今からこの手袋をつけて、

君のケツ穴を丁寧――

ほーぐ・し・て・や・る・の・に！

そんな失礼な姿勢で受け入れる気か？

ケツを――突き上げろ。

ぐっと、穴を見せろ。

（ビシッー！ ビシッー！）

ほら！

ほら！

ふふーん、よしよし。

叩かれるほど素直になるマゾ穴、

――教育しがいがある。

（間）

両方のケツにくっきり手形が浮いて、
私の跡がしっかりついてしまったな♡

（中・近）

ではもう少し…いたぶってやろう――

左右に交互に、

1、2、1、2……

ほら、ほら！

（ねちねち口調で）

——で？ 君。

性交経験、何人だっけ？

〇人？ ふふっ、なるほど。

ま、ザコオスにしては多くもないが、
中途半端で“ダサい”な。

（さらに叩く）

で？ マスターベーションは？

「日何回？」

週「？ ふっぎげんな。

若いオスが週「とか——

絶対嘘だろうが。

（ドスッ）

おら！

ふん

ウソはダメだ。

もっと正直に言え。

嘘でもいいから、

私が悦ぶ数を言え。

（口元緩めて）

ほお、「日〇回、ふっぐ」抜いてるのか。

ふふーん、いい部下じゃないか♡

元気なザーメンザルは、
しっかり犯しがいいがある。

(右・近)

じゃあ——その中の何回、
私でオナニーしてるんだ？

「一日〇〇回中、何回が“私”なんだ？

ふふっ、でかいパイオツに、
極太ふたなりちんぼ持った女上司——
そんな存在が近くにいたら、
ネタにしない方が失礼だよなあ？

さあ、言え。

どれだけ私でシコったか。
ネチネチねつとり、包み隠さず。

(叩く)

ほら！
ほら！

(中・近)

ふふーん、
〇〇回中「一回は私で抜いてます、か。
うーん……本当か？

なんか怪しいなあ。

私を喜ばせるための

“営業トーク”じゃないのか？
どうなんだ？

ふふ、

そうか本当か、いいやつじゃないか、

(さすさす)

ほーら、さっき叩かれて真っ赤になったケツ——
さーすさす、さすさす……
どうだ？

わかりやすいアメとムチだろう

ビシビシの後に、

撫で撫でってされると、

オホ、オホッ♡って、声が漏れそうか？

おーおー、

ケツ穴がまたヒクヒクしてきた。

もう騷けに反応する

“マゾ性癖”になってるぞ。

（中・近）

じゃあき。

私で抜いたときのオカズ――

なんだったか、教えろよ。

“私が喜ぶセリフ”をしっかり選んで、
言葉にして、伝えてみな？

ゼーんぶ、

ゼーんぶ、

言わせてやるからな♡

（中・近）

ふふっ、そうか。

私のデカちゃんぽが、

君のケツ穴をズボズボ犯してる妄想で――
毎日シコってたんだって？

ふふーん、可愛いザコオス♡

でも今日は、その“夢”――

叶えてやるよう？

(右・近)

——ほら、まずはご挨拶だ。
上司の指をく君のマゾケツに
ズボッ！

(ぬちゃっ)

ほーれ
はいつたぞ

おーおー……なにこれ、
入れた瞬間にキューキュー締め付けて、
初めてのくせに、
歓迎モード全開じゃないか？

ふふっ、抵抗ゼロのくせに、
妙に締めりだけはいい。
いい子ちゃんに育ってるなあ？

(中・中)

ヒクヒク、ヒクヒク……
敬礼アスタリスクが、
ご挨拶をしてくるぞ？

オホ、オホッ♡なんて、
口から勝手にメス声漏れてる。

——誰が感じていいって言った？

今やってるのは、“前戯”じゃない。
君のケツ穴を“拡張”して、
私のチンポを挿れるための“下準備”。

なのに、
なんで勝手にビクビク感じて、
情けない喘ぎ声垂らしてんだ？
この粗チン、マゾオス♡

(中・近)

おーおー、その顔、ヤバいな。

まるでちんぽ欲しがるメス顔になってるぞ？

(ズボツ)

はい、次々本追加。

(ぬぼ、ぬちゅ、ぬちや)

——ゴシゴシ、ゴシゴシ、

上下に、左右に、

オス穴の壁をこすって、

グチユグチユ混ぜて……

ふふーん、あ、ここかな？

コツンツ、って当たったな？

——君の♡スポット♡

(やや右・近)

どうした？声震えてるぞ？

(復唱する感じで)

そこダメ？そこ気持ちいい？

ゆるしてえ〜♡

なんて〜

ははっ、

ザコらしい反応だな。

ほら、もっと震えろ。

中でゴシゴシ、

ほじくり回してやるから♡

(ドスッ、ドスッ)

ん？オホ、オホ？

おいおい、触ってもない粗チンがピクピクして——

“勝手に”興奮してんじゃないよ。

射精は——許さない。

でもな？（低く囁き）

メスイキなら、してもいい。

私の指でほじくりまわされたオスケツで、
ちんぽじゃなく、ケツ穴で……

ビクン、ビクンって、情けなくイけ。

君のそのザコちんぽが、

一滴も出さずに、

腰だけピクピク震わせて果てる姿——

私の大好物なんだから♡

（中・近）

ほら、ラストスパートいくぞ？

ズボズボズボズボ……！

ゴシゴシゴシゴシ……！

（テンポアップ）

——5、4、3、2、1……！

（右・密着）

メスイキ、しろ……！

ケツで果てろ、ザコ……！

（SE:ちんぽの音）

（間）

おーおー……ふふーん。

腰、ビクビク震えて、

呼吸もヒューヒュー。

しっかり、“ケツまんこだけで”イッたな？

(中・近)

オホホ……ふふーん。

なかなか、やるじゃないか。

粗チンぶら下げたまま、

ちんぽの先からトロろっつと我慢汁……

ちゃんとイけたんだな…

(ねっとり)

……えらいえらい♡

でも——そのクセ、

私は、ちゃんと見逃さなかったぞ？

(囁くように)

私の指を……

キュー、キュー、キューって、

ヒクヒク締めつけて——

私に媚びてきた♡

(間をおいて)

ふふーん、天才か？ 君は。

人生初のアナル開発で、

指だけでイケ逝って——

しかも私を喜ばせるなんて…

そんな逸材、私は見たことがない。

(中・近)

これはもう、徹底的に仕込んで、

私専用のオス穴に“改造”しないとな。

だって……

期待しちゃうじゃないか♡

どれだけ可愛く、

どれだけ情けない声で、

私のちんぽを迎え入れてくれるのかって……な？

(低く囁く)

ふふっ……まだケツを犯すのはお預け。

その前もう少しだけ、

“準備”をしておこうか。

——君の情けないちんぽの、な？

(間)

安心しろ。私はふたなりだ。

ちんぽの扱いには——誰よりも精通している。

君の“甘やかされすぎたちんぽ”よりも、

何十倍、何百倍もシコリ続けてきた、

——私の黒光りの極太ふたなりちんぽ♡

ふふーん、経験値が違うんだ。

その“粗チン”も、私の手にかかれば——

あっという間に…

“調教済みちんぽ”に仕上がるぞ？

(トラック③)

(中・近)

——ほら、私が背後からそっと密着して、

このデカパイオツを背中に……ムニッ♡

わかるか？

腰のあたりで、ドクドク当たってるもの。

それが……今にも爆発しそうな、
私のふたなりちんぽ♡

(右・近)

(ききやき)

今すぐ犯したい。

喉奥まで突いて、

ケツも口も犯して、支配したい。

でも、ふふっ……今日はちょっとだけ我慢して、
まずは君のちんぽを——

“育てて”やろう♡

どうだ？ 震えるか？

楽しみか？

このまま——私の手で

チンポしごきながら、

耳に「快楽音」を叩き込んで

君のちんぽも心も、

とろけるまで“開発”してやるぞ？

(右・密着)

(くすくす笑いながら)

ふふーん……じゃあ、まずは……

右耳から、いただくぞ？

(耳舐め開始)

(ベロツ、ちゅらっ)

ほーら、ほらほら♡

ぺろぺろ、へちゅへちゅ、ちゅぽちゅぽ……♡

ほーれ

(じゅーぽじゅーぽ連呼10秒)

どうした？ ビクビクしてるな？

“耳”舐められてるだけだぞ？

でも、舐めてるのは上司――

それも、ふたなり部長♡

ムニツとデカパイが背中に押しつけられて、
ケツに当たってるのは――

私の極太ふたなりちんぽ♡

（ねっとりと）

こんな体験、人生で一度あるかないか。

ふふっ、君は運が良いな。

ん？ほら、

また舐めてあげようか？

ちゅぶっ、ぬろっ、ぬちゅぬちゅ

（みみフェラ 10秒）

ほらほら、舐められるたびに……

おちんぽ、ピクピクって痙攣してるぞ？

耳の神経、ちんぽと直結してるんじゃないか？

ふふーん、情けないオスだ。

――じゃあ、そのちんぽも、しっかり調教しようか♡

（くすくす）

ふふーん、君のちんぽ……

見るからに半勃起で、皮がたっぷり。

ほーら、ぬちゅ……

皮を――ゆるくく、こきあげてやろう♡

(耳舐め＋しゅごっ、しゅごっ連呼 10秒)
ほーら

シコシコ……

よわ〜く、やさし〜く……

ふふっ、皮余りってき、

“天然のオナホ”って呼ばれてるの、知ってる？

——君のちんぽ皮は、

私の“手コキ責め”で皮オナホコキされるためにある。

(耳をぺろぺろ)

ぺろぺろ、ぺろぺろ♡

(みみフェラ 5秒)

ほら、もっと耳も舐めながら——

(しゅごしゅごしゅご連呼 10秒)

ちんぽも皮でゴシ、

ゴシ、ゴシ……♡

(しごしご、ゴシ、ゴシ 8秒)

(ねっとり)

なあ？

気持ちいいだろ？

気持ちいいなあ？

自分じゃこんなに丁寧にシコけないだろ？

ほーら、焦らされながら——

射精ギリギリの淵まで

連れていかれる感じ♡

(右・近)

おーおー、我慢汁が……

「とびゅん」って垂れてるぞ。

でも——まだ出しちゃダメ♡

(ちゅぷっ、ちゅるちゅる 耳舐め5秒)

耳はペロペロ、

ちんぼはぬちょぬちょ。

どっちが性感帯か、

もう分かんなくなってきただろう？

(囁き)

でもダメ。

射精は、まだ——お預け♡

今は“ちんぼを育てる”時間だ。

寸止めされながら、

私に全部、調教されろ♡

(中・近)

ふふ

——じゃあ今度は、反対側、いこうか？

ほーら……左耳を、いただきます♡

(左・密着)

ぬちゅ、じゅぽっ、ぬるぬる……

(耳フェラ 5秒)

ほーれほれほれ♡

くちゅくちゅ、へちゅぺちゅ♡

(耳フェラ 5秒)

ふふっ……耳を舐められるたび、

ちんぼの脈が跳ね上がるの、分かるぞ？

じゃあ——そろそろ

“ガチ勃起ちんぼ”を

本格的に育ててやろうか。

(しゅこっ、しゅこっ、ズリユズリユ 耳舐め 5秒)
ゴシゴシ、ゴシゴシ、ゴシゴシ……

(耳舐めをゆっくりにして攻める)
ふふ

このコキ方、
君の反応見て最適化してやってる。

裏筋が弱いんだろ？
知ってるよ、

何度も雄の射精をさせてたから

ここがきもちいいんだろ？

(くいくい、トット)
ほら、人差し指で――

裏筋、重点責め♡コキコキコキ……

(ねっとり)
――おやぁ？ んほ、んほお♡♡

跳ね上がる跳ね上がる。
君のちんぼ、まるで別の生き物。
びっくんびっくん暴れ狂って、
気持ちよすぎて勝手に踊ってる♡

(中・近)
でも、止めないよ？
耳はぬちゅぬちゅ、ちんぼはズリズリ。

上司の私が、君の皮余りちんぼを、
一定リズムで、気持ちよくシコってやると……

(くすくす声)
ほーら、
情けない喘ぎ声がダダ漏れ。

オホ、オホ♡ 全身ビリビリ痺れて、
ちんぽの先っぽから——ダラダラ我慢汁♡

（低く囁く）

“イキたい”って顔してるなあ。
君のちんぽ、今にも爆発しそうだ。

（ぬちゅ、じゅぽぽ、ぺろぺろぺろ 耳舐め5秒）
耳もジュボジュボに舐めて、
脳みそまで蕩けさせてやる。

（右・近）

（復唱する感じで）

ああん、イキたい♡ イキたい♡
ちんぽが……イかせてって懇願してるな？

でも君のちんぽ、もう分かってる。

誰が“ご主人様”なのか——

誰に支配されてるのか。

（くすくす）

しょうがないなあ……

いい子にした君に、“ご褒美”だ。

（しゅこしゅこしゅこしゅこしゅこしゅ 連呼 5秒）

ギュッと握って、シコリ速度一気に上げて、

5……4……3……2——

（スッと手を止める）

……はい、ストップ♡

（中・近）

おーおー、ふふーん。

射精に備えて、全力で頑張ってたちんぽ……

ピクピク痙攣して、“出せない苦しみ”でのたうち回ってるなあ？

——ほら見てみる。

ちんぽ、痙攣、口半開き、腰ブルブル。
イケなくて、脳がバグってる♡

(ねっとり)

イかせてやるわけないだろ？

まだまだ——育てるんだから。

(密着しながら)

もっと寸止めさせて、
もっと快楽と支配で洗脳して、

ちんぽが本能で私を求めて、

“命令されなきゃ射精できないオス”に——
しっかりと、仕上げてやる♡

(右・密着)

——ほーら、右耳、またへろへろ♡

ぬちゃ、ちゅば、じゅるっ♡ちゅくちゅく♡
(みみフェラ 5秒)

(リズムに合わせて)

ゴシ、ゴシ、ゴシ、ゴシ、ゴシ、ゴシ、ゴシ♡
(みみフェラ 5秒)

射精寸前の——生き恥ちんぽ♡

(中・近)

(復唱する感じで)

あらあら、ふふーん。

「やめて、イかせて、もう無理なのー」って、
泣き声混じりのマズちゃん発言、うまくなってきたな？

「出る、出る、出させてー!」

——うん、いい声♡

でも私は、

君のちんぽなんか、イかせてやらない♡

耳をぺろぺろ、舌先で耳穴の奥を――

チロチロ、ぬちゅぬちゅ♡

ちんぽはゴシゴシ。

刺激、耳とちんぽ、同時責め♡

(ドS調で)

ほーら、これが“101”のちんぽコーチング♡
超実践型の性癖矯正プログラムだ。

(しゅっしゅっ)

ちんぽゴキの速度と角度、

毎秒単位で調整してるからな？

(右・近)

絶対、

自分じゃたどり着けない速度と精度。

寸前まで気持ちよくさせて――止められる。
だから脳が“壊れる”。

――じゃあ、耳にキス。

(ちゅぽ♡ちゅぽ♡)

んー、ぺちゅ♡じゅっ、じゅぽっ

(みみフェラ 5秒)

……カウントダウン、いくぞ？

5……4……3……2……

(耳舐めピタッと停止)

ほーら、ちんぽの動き――ストップ♡

(中・近)

おーおー、見てみる。

イケなかったちんぽが、

トロトロと、我慢汁だけ垂れ流してる♡

射精できないショックで、

腰が勝手にブルブル、

顔も涙目で、崩れ落ちそうだなあ？

(中・中)

——でも、まだ終わらないよ？

(左右から指)

今度は、両方の乳首——

カリカリ、カリカリ♡

キュリキュリ、クリクリ♡

耳は舐めっぱなし、

ちんぽは放置♡

乳首だけ、コリコリにこりつけられて——
どーする？ この状況♡

(中・近)

ふふっ、見下してやるよ。

ちんぽが可哀想なほどシカトされて、

乳首だけで腰へこへこ♡

——それが、今の君の“実力”だ。

(中・近)

泣けよ？ 叫べよ？

「出させて、出させて」って

オスの本能でおねだりしろ♡

(右・近)

でも、私は言ったよな？

「ちんぽはイかせてやらない」って♡

君はもう、

意地悪上司に“射精没収”される運命♡

——ふふっ、パワハラ？

セクハラ？

知ったことか。

君のちんぽは、

会社の“福利厚生”にでも登録しとけ♡

(ぺろっ)

じゃあ——今度は、両乳首を逆回転♡

ねじりつけて、

かり♡

かり♡かり♡

ねじりいい♡

(復唱する感じで)

オホッ、オホッ、オホ♡♡♡

おや？ おやおや？

ちんぽ触ってないのに、

腰がガクガクしてる♡

感度が上がりすぎて、

乳首と耳だけで、マゾ雄絶頂目前？

(中・近)

だったら——命令だ。

——私に、服従を誓え。

今後、誰ともセックスしない。
会社も辞めない。

私の欲望に、365日応える。

君の“業務”は、

私の性処理係——それだけだ。

(間)

ふふーん。

ようやく、覚悟ができたか。

ザコオスにしては、なかなか立派だ。
その“決意”——

ちんぽに、しっかり記憶させてやろう♡

(やや右・近)

——さあ、いくぞ。

私にシコってほしいなら、
しっかり腰を突き出せ。

“自分の欲望”を認めて、
上司様に——ちんぽ、献上♡

(ぬちゅっ、ぺろっ)

このイキたがりの、マゾちんぽ♡
今すぐ教育してやる。

(中・近)

ふふーん、見てろよ——

両手で、ちんぽ、しっかりコキ上げてやる♡

利き手で亀頭を、
ぐりっ、ぐりぐりっ♡ゴリゴリ責め。

もう片方の手で、竿を——
シコシコ、シコシコ、ゴシゴシ、ゴシゴシ♡

ほーら、気持ちいいな？

気持ちよすぎて、

脳ミソ、壊れかけてるだろ？

（ねっとり）

君みたいなザコオスには絶対できない、
本物の“ちんぼの扱い”。

（やや左・近）

——ん？ 許して？

イキたかったんじゃないのか？

ドの上司にちんぼ握られて、
頭ぐるぐるおかしくなって、

「壊れちゃう〜♡」って震えてる。

……ふふっ、最高の顔だな。

壊れていいよ？

壊されるためのマゾちんぼなんだから♡

（左・近）

見ろよ、その情けない勃起。

裏筋を——爪でキュッキュツって立てながら、
下からグリグリ——ゴシ、ゴシ、ゴシッ♡

おーおー、腰跳ねてるなあ？

勝手に浮いて、腰へコへコさせて、
マゾの本能むき出し♡

（左・密着）

じゃあ——耳も舐めてやる♡

ぬちゅ、じゅるる♡ ちゅっ♡

（耳フェラ 5秒）

(耳舐めしながら)

(低く命令口調)

……出せ♡

出せ♡

出せ♡♡♡

(囁き)

ほら……今、君のちんぽに命令してるのは、私だ。

スケベな耳コキと、ドSコキで——
ちんぽ、もう爆発寸前♡

いくぞ……

5、4、3、2……

(ピタッと手を止める)

——ストップ♡

(中・近)

おーおーおー♡

一番気持ちいいところで止められて、
腰、ガクガク、涙目、射精不能♡

我慢汁だけダラダラこぼして、
“いけない苦しみ”に震えてる♡

でもな？ 最後まで、
君の努力に免じて——

(ねっとり)

……言葉だけで、イかせてやろう。

(左・密着)

$$1 \\ \vdots$$

(低く)

果てろ♡

(一 拍)

ゼーローローッ!!!

(SE:ぶるぶるぶる、ッ、ビュクッ、ビュビュッ)

(中・中)

ふふーん♡

本当に、いったな？

私の命令で、言葉だけで、
ちんぽから全部、搾り出して♡

おつかれ、ザコちんぽ♡

君の“初めての敗北”、

すつごく可愛かったぞ♡

(中・中)

おーおー……ふふーん♡

ちんぽ、触ってもいないのに、

勝手に。ピクピク痙攣して――

ぴゅっぴゅっ♡

ぴゅっぴゅっ♡

ぴゅっぴゅっ♡

(嘲笑混じりに)

ふふっ……安っぽい水鉄砲みたいに、
しよっぱいザーメン飛ばして。

なんだよそれ。

“オスの最期”としては、あまりに惨め♡

（ねっとり）

やっぱり、君には似合うな。

ちんぽ握られもせず、

耳元で囁かれて——

命令だけで、イキ果てる。

——その程度の、ザコマゾちんぽ♡

（左・近）

ふふっ……見てみろよ、君の顔。

白目むいて、口開けて、

射精の気持ちよきに負けて、

そのまま意識飛ばしかけてる。

……はあ♡

なんて無様で、可愛い顔なんだろうな。

（冷ややかに）

でも——上司の“ちんぽ”より先に退勤？

——それは、許されないぞ？

“性処理業務”は、

上司が満足するまで終わらない。

（くすくす）

今からたっぷり、

“反省タイム”と“わからせフェーズ”に
突入だ♡

ちゃんと目を覚ませ、マゾちんぽ。

この夜は、まだ——終わらない♡

(トラック④)

(中・近)

ふふーん……目が、
覚めたかい？ ザコオスくん。

(ねっとり)

首、絞まってたろ？

——ネクタイでググツと締め上げて、
顔真っ青になって、白目剥いて、

あと数分で窒息死……ってとこだったな♡

(左・密着)

でも安心しろ。

君はまだ“上司のちんぽ”に貢献してない。

やるのは、そのあとだ♡

——じゃあ、働け。

この——勃起ギンギンのふたなりちんぽを、
今すぐしゃぶれ♡

(低く命令)

ほら、しゃぶれ。

しゃぶらないと、今度はマジで殺すぞ？

(ぬちゃっ、じゅるるるっ♡)

おーおー……いい子だ♡

(中・近)

自分のちんぽより何倍も太くて、
長くて、黒くて、

ズリズリと喉奥に突っ込まれて——

口まんこ、ガバガバにされてるな？

(くすくす)

どうだ？

私のふたなりちんぽ、味はどう？

——このちんぽはな、

オスもメスも——100人以上、

気絶するまで犯してきた、ドスケベ竿♡

格が違うって、分かるだろ？

(右・密着)

ふふっ……

喉奥に、ズブツ……って差し込むたびに、

コツコツ……ゴリゴリ……♡

どう？ 君の喉が、内側から削られていく感じ♡

(囁くように)

喉ちんぽ——暴れてるの、感じるだろ？

ゴリッ、ゴリッ、って。

ちんぽの先が、君の喉を内側から

“形変えながら”押し広げてる♡

(少し強く)

「オッ」「ゲフウッ」って、

苦しそうな声、たまんないなあ♡

(一呼吸置いて)

ふふーん……初めてなんだよな？

——“喉の奥でちんぽが跳ね回る”感覚♡

こんなの、知らなかっただろ？

(下品に)

上司のふたなりちんぽ、

ズブズブ差し込まれて、

“喉マンコ”にされるなんてさ♡

昨日まで思いもしなかっただろう

(攻め口調で)

ん？どうした？

涙目で私を見上げて……

何か言いたいのか？

ふふ

空気が欲しいのか？

じゃあ、

喉奥から抜いてほしかったら……

ほら、舌でちんぽにキスしろ。

(の指示)ちゅっ、ちゅばっ、て音出して、

“ありがとう”のキスをな♡

(さらに追い打ち)

できない？ なら——突っ込むぞ？

ほれえええ

おお、すごい吸いつき♡

君の喉、初めてにしては上出来すぎる。

(甘く)

ほら、喉奥で愛撫してやる。

ちんぽで喉をゴリゴリ擦って、

中から君を“飼い慣らして”やる♡

(ぐちゅっ、ゴボツ、ずちゅっ)

おやおや？ 苦しそだな。

(くいつ、ネクタイを締め上げる)

じゃあ、さらに——空気、奪ってやろう。

——ネクタイ、ギュッ♡

はい、空気禁止♡

(中・中)

口を開けてるのに、

息ができない——地獄の口オナホ♡

それでもちんぽしゃぶるしかない。
だって止めたら

“命ごと”ぶち犯されるんだから♡

(中・近)

あれあれ？ 泣いてる？

涙ぼろぼろ垂らして、

喉奥レイプされながら、粗チンしごいてんの？

(嘲笑)

誰が許可した？

お前のちんぽなんか、

触っていいとは言ってない。

調子にのるな

文字どうり

——クビにするぞ

“上司のちんぽをしゃぶりながら

勝手にオナニーする部下”

おしおきだな！

(左・密着)

ほら、ネクタイ、ギュツ♡

窒息限界——そろそろ意識飛びそうか？

それでも止めないぞ♡

君はもう——

“私のちんぽ専用

喉オナホ”なんだからな♡

(中・近)

ふふーん、

じゃあ——いよいよ、

君の喉奥を“犯す”時間だな。

(ギョッ)

最恐の力で

——ネクタイ、締め上げるぞ。

ほーれ

ぎゅうう

(くすくす)

ほーら、空気がなくなっていく……

息、吸えないのに、

口まんこだけは開いてて……

ふふっ、喉奥犯される準備、
バッチリだな♡

(ぐちゅっ、ずちゅっ、ずぽっ)

おーおー、やつぱ。

この喉奥、反応良すぎ♡

私の極太ふたなりちんぽが、
ズボズボッ、ズボズボッ、ズボズボッ♡

——奥まで届くたびに、

君の喉が、ゴクゴクって飲み込み音を立てて、
ちんぽ根元まで、舐め上げてくれる♡

(ぴちゃぴちゃ、じゅるるっ)

金玉もブランブラン揺れて、
ちんぽがズルズル吸われてるの、感じる♡

(中・中)

でもな？ まだだ。まだ、射精はしない♡

私の“今日の一番搾り”は、

ただのちんぼの発射じゃない。

ちんぼの快楽が頂点を超えた瞬間に、

喉奥にビュルルって勢いよく射精して――

胃袋を……“妊娠させる”勢いでぶち込む♡

(腰を振りながら)

だから、ほら……

へこへこ、へこへこ、へこへこ♡

腰振って、口まんこをしゃぶらせながら、

射精に向けて――

ちんぼ全体で、ザーメン練り上げ中だ♡

(左・近)

ん？ 苦しい顔してるなあ。

空気がなくて、

頭がぼわぼわ、酸欠バカになって、

でもちんぼは――

気持ちよすぎて限界突破。

――ふーん。

そんな状態で

「上司のザーメン欲しい……♡」って

顔してるじゃないか♡

(首にギョツとネクタイ)

じゃあ――

その望み、叶えてやる。

キューツとネクタイ絞って、
空気を完全に奪ってやる。

(右・密着)

ほーら、白目むいて、喉奥ガバガバ。

いま君、

“呼吸の代わりに、私のちんぽで生きてる”♡

——じゃあ……

いくぞ。

(リズムよく腰を打ちつけながら)

ほら、へこへこ、

へこへこ、へこへこ、へこへこ♡

両金玉、限界まで上がって——

ちんぽの芯が、ギンギンに膨らんで、

今から——

君の口穴に、全部ぶっ放す♡

3……2……1……

——ふたなりちんぽの……

本気の口射精、イっく♡♡♡

(ビュルッ、ビュッ、ビュビュビュッ！)

(中・近)

おほ♡

おお〜……出てる♡

ビュッ、ビュルッ、

ビュビュッ、ビュ〜♡♡♡♡

ザーメン、

喉奥を流れて、口から逆流しそうになって、
でも空気がないから飲み込むしかない♡

ふふっ……

私の“白濁精液”、君の胃袋に着床してるぞ♡

（左・近）

ああ〜、気持ちよかった♡

若い部下の口まんこに、

朝イチの濃厚搾りたてザーメン、

ぜーんぶ吐き捨てるとか……最高か♡

——飲みきれたか？

（ぐいっと顎を掴む）

もし一滴でも残ってたら……

最初から、また始めるぞ？

ふふーん、わかったな？

（中・近）

でもよく頑張った。

——じゃあ今度は、

“本番”でイかせてやる番だ。

ここまで丁寧に仕込んだマゾオス。

私のふたなりちんぽで——

“処女まんこ”、開通させてやらないとな♡

(トラック⑤)

(右・密着)

ふふっ……

そろそろいいだろう？

もうガマンできないなあ？

ヤラセろ、ヤラセろ、ヤラセろ♡

さっき口に吐き出したばかりのザーメン、
あんなのは“肩慣らし”だ。

ふたなり金玉、ふふーん……

もうパンツパンに震えて、

右も左も、せっせとザーメン製造中♡

おーおー……

そんな健気な金玉たちが、

「また出させて♡」ってうずいてる♡

(くすくす)

君に“打ち込みたい”ってき♡

(中・中)

ほーら、君のアナル——

あれだけ育てたんだから、

もうイケるよな？

ほーら、いい子に伏せして♡

両手をベッドにつけて、

お尻、高く、高く上げて♡

ふふーん……

お願いされると、

上司として“応えてやりたく”なるなあ？

うふふ、いいかっただ

(中・近)

そのオスアスタリスク…
バッチリ見えてるぞ？

(低く囁く)

ヒクヒク、ヒクヒク♡

震えて——怯えてる？ 違うだろ？

ちがう、ちがう、ちがう♡

これは、“待つてる反応”だ♡
このあと——

でっつかい私のふたなりちんぽが、
ズボズボと入り込んでくるのを♡

(くすくす)

想像してるんだろ？

・でかい

・太い

・えげつない形状

・締め上げられる快感

・メスイキする羞恥

オス穴が、ねじれるくらい、
このヤリ竿でコスられて——

「イグウウ♡」って

ケツイキして泣き叫ぶところ♡

(やや右・近)

——お前、もう発情してんだよ♡

ほら、ピッチアナル、ぴちぴち動いて、
喰いつくように竿をおねだりしてる♡

(グツと押し当て)

どうだ？ 感じるだろ？

この灼熱ちんぽ、今すぐブチ込みたがってる♡

君のケツに、ずーっと押し当てて、

シリシリ、擦りつけて、圧かけて――

君を、メスに変える準備中だ♡

(左・近)

おーおーおー♡

「やだ、ゆるしてえ♡」とか、

口では否定してるのに、

アナルが答えてるぞ？

(囁く)

「ちんぽ、ちょうだい♡」ってな♡

じゃあ、言え♡

(圧を強めて)

「上司様の、あっついちんぽ♡」

「今すぐ、ください♡」

ほら、言え♡

言わないと、

ネジリ殺すぞ？

(強く)

おら

言え、言え、言えッ――！！

(中・近)

ふふっ……いい子だね。

ちゃんと、言えたな。

じゃあ――♡褒美だ。

(低く優しく)

その忠誠心とビッチ根性、
私が全部……受け止めてやる。

(右・密着)

……腰、掴むぞ。

ふたなりちんぼの熱と鼓動……
ちゃんと感じてるか？

——今から、君の処女ケツ穴に……
“私”を刻みつける。

(ぐいっ)

狙いは、完璧。

半開きのヒクヒクしたアスタリスク、
逃げ道も、言い訳もない。

——じゃあまず、亀頭だけ。
ゆっくり、ね。

(ぬちゅっ……ずりゅ……)

おーおー……ふんーん。

このアナル、ちんぼの先端を揉み込んでくる♡

キューキューキュー♡

“奥までくささい”って、舌打ちみたいな締まり方。

(ぴたりと止めて)

でも……焦らすわけにはいかないな。
ほら、

——全部、一気にいくぞ。

(腰を打ちつける)
ほーれっー！

(ズブズブズブッ……ッ!ー!)

(中・近)

……おおっ♡ 入ったなあ……♡
根元まで——

この極太ふたなりちんぽ、
処女ケツ穴に——

ズボズボの、ズッポリだ♡

(くすくす)

どうした？

「壊れちゃう」「やめて」って顔して。

でも、アナルは……

「もっとください」って——震えてるぞ?♡

ほら、分かりやすいように、

へこ……へこ……へこ……♡

(優しいリズムで腰を突く)

(やや右・近)

ふふっ……君、

へこへこ突かれてるだけで——

そんなにエロい声、垂らすんだ？

おーおー……

声が、私のちんぽに響いてる♡

それ、耳じゃない。

膣でもない。

ケツ穴から、響いてきてるんだ♡

(舌舐めずりするように)

もっとエロい声、出してみろ?。

私をその気にさせるような——

“スケベなメス声”で、鳴いてみる♡

（低く熱く）

誰よりも、気持ちよくなるために、
誰よりも、ドスケベに、喘いでみる？

（腰の動き加速）

ほら……ほら……ほら……♡

（中・近）

おーおー♡ いい子だ♡

オホ、オホ♡ って——

ねえ……君、本当にオスなのか？

声も、表情も、

もう——“抱かれることしか知らない牝”♡

それでいい♡

それが君の才能だ。

（右・密着）

ねえ……知ってたか？

若いオスはな——

ちんぼの“こ・こ♡”に小突かれるだけで、
誰にでも、惚れちゃう♡

（コツン、コツン、コツンッ）

——ほら、こ・こ。

私の亀頭で、優しくノックしてる。

「こ・こが好き♡♡」

「こ・こで壊して♡」

「ちんぼ様で、恋愛させて♡」ってな。

(囁く)

もうすぐだ。

このまま、ケツ穴だけで――
絶頂、教えてやるからな？

(中・中)

ほーらほらほらほら♡

見てごらん？

私のガチ勃起ふたなりちんぽ――
今までで一番、ビクビク脈打ってる♡

ズボン突き破りそうなくらい、
ゴリゴリに血管浮かせて、

――ピストン、加速してるぞ♡

(腰打ちつけながら)

ズチュッ♡ズチュンツ♡ズボズボズボズボ♡

――君の弱点、もうぜんぶ把握済み♡

一番気持ちいい場所に、

一番エグい角度で、

一番イヤらしい深さで、

ズンズン、ぶっ刺してやってる♡

(左・密着)

ふふっ……おやおや♡

またイキそうな顔してるじゃないか♡

(真似するように)

「イキたい……イキたいです……」

「お尻でイキたい……♡」

「上司のちんぽで、オホオホ言いながら……」

――ああ、よく言えたな♡
クソビッチめ♡

オスなのに、
ケツ穴でイキたいイキたいって、
ビクビク体揺らして、
声も表情も、もう完全に――
“牝”だな？

（中・近）

――わかってる。

君は“私のちんぽ”が好きなんだ♡

――快感を、

――支配を、

――命令を、

全部ちんぽで“叩き込まれて”、
それにイカされる悦びを――
もう手放せなくなってる♡

だから言ってる。

（くいっと顎を掴む）

いいか、これは最終テストだ♡

このラストの射精で、

“ケツ穴で完全絶頂”できたら――
君は晴れて、

――私の“専属オナホ”に昇格♡

オフィスで、トイレで、出張先で、
どこでも、

“ケツ穴ひとつでちんぽ受け入れる”
上司専用マゾ奴隷になれるぞ♡

（右・近）

――さあ、準備はいいか？

ふふっ……

ふたなりちゃんぽ、今ガチガチに膨張して……
通常の2割増しの太さと熱さ♡

ピストンの度に、

“奥に届いた！”って脳が叫んで、
快感だけで意識がぶっ飛びそうだろう？♡

(囁き)

じゃあ、カウントダウン……
入ってやるよ♡

——最後のちゃんぽプレゼント、
喉の奥でも、口でもなく、
君の——“牝穴”にぶち込んでやる♡

(ピストン速度MAX)

おら、おら、
おら、

——いくぞ？

ちゃんと“射精許可”をもらえ♡

私に、命乞いしながら——
「ザーメンください♡」って
ケツで懇願しろ♡

(右・密着)

さーん……(囁くように低く)
ふふっ、ほら、君のケツ穴……
今、私のデカちゃんぽで
ズブズブに突き上げられて、
ヒク、ヒク、ヒクヒクう♡

おお〜♡

(少し荒く)

(喘ぎ交じりに)

——金玉が……重い……♡

パンパンにザーメン詰まって、

今にも、爆ぜそうだ……♡

(中・中)

ブランブラン、左右に揺れる極ふたなり金玉。

今、この瞬間のためだけに、

グツグツ煮詰めた濃厚ザーメン、

溜め込んできた……♡

どこに出せば、一番君が壊れるか？

どこにぶちまければ、

二度と戻れなくなるか？

(ぐっ、と腰を押し込む)

——全部、わかつてる♡

(少し笑いながら)

ふふっ、ほら——

そこに出さいたいんだろ？ クソビッチ♡

今、一番感じるポイント、

ピンポイントで狙って、ぶち込んでやる♡

にーい……(低く、粘るように)

ふふーん……君のアナル、すごいなあ……♡

(中・近)

ヒクヒク痙攣しながら、

ケツ穴の粘膜が……チューツ、チューツ♡

まるでストローのように……

私のちんぽを吸い上げてる♡

（甘く囁く）

そんなに私のザーメン……欲しいんだ？
変態め……♡

ケツのシワ一本一本で、
私の亀頭にご奉仕して――

（笑って）

まさに接待アナル♡

ふふーん、そんな出来たアナルには、

――上司の愛情たっぷり
射精で舐けてやらないとな♡

（カウントダウン、囁きから強く）
さん、にいいい

いーち……

（ぐぐつと腰を押し付け）

出るっ、出る、出る………！！
ちんぽ根元までブチ込んで――
腰、痙攣するくらい突き上げて――

――金玉、ブルルンッ……
ぶるん、ぶるん、ぶるん………ッ……！！

ザーメン、射精、準備完了………！！

ゼ………ロツ………！！

（絶頂・挿入タイミング合わせ：声優指示）
（絶叫気味に）

イッたッ……！！ 出すぞッ……！！ 出すぞオオッ……！！

んごおおおお！

(中・中)

ああああ♡♡♡

君のケツ穴があ……

キューキューと収縮して、

まるでザーメン吸い込む胎内みたい♡

——私の濃厚ザーメン、

びゅーびゅー、びゅーっ♡

射精ツツ♡ 中出しツツ♡

(中・密着)

おお……出てる、出てる、出てる♡

想像以上の……

いや、“想定外”の、ぶっ壊れ大量お射精♡

ふふーん……

ふたなり上司の本気ザーメン、

ぴゅくぴゅくツと、ケツ穴に刻み込んで——

んっ……んんん、出すぎて……最高だ。

(少し息を荒らして)

ああ……ほんとに……

気持ちよかったぞ？

私の意識、飛びかけた……

こんなにいいオナホケツ、

君くらいのもんだ……♡

(優しく)

……この接待上手のビッチアナルが♡

(くいつと体を起こしながら)

——ほら、こっち向け？

君の顔、正面から見たい。

(中・密着)

ほーら……まだちんぽ、入ってるままで——
このまま……キスしてやる。

(艶っぽく、深く、ねっとり)

ちゅ……ちゅば……ちゅ……ちゅ……♡

(キスフェラ 10秒)

(中・近)

ふふっ……(くすぐす)

キスされるたびに、

ほら、目がとろ〜ん……♡

——オホ……しゅき、しゅき……って、
もう完全に“ハートの目”だな？

そうだ、それでいい♡

(トーンを落とし、静かに)

上司に抱かれたその日から——

君はもう、私の“女”だ。

——名前じゃなくて、性別じゃなくて、
“関係性”で決まってる。

私は上司で、君は……“抱かれる部下”。
それだけ。

そこに逃げ道はない。

(右・近)

男だった過去も——

オスだった自我も——

すべて、私が破壊してやった

残ったのは、“私に飼われるマゾ女”。
それで充分だろう？

(中・密着)

ふふーん。わかったら——
ちゃんと仕えろよ？

私のちんぽが疼いたら、
ケツを差し出して、

——びゅーびゅーびゅーびゅー
射精させてもらうこと。

オフィスでも、自宅でも、出張先でも——
君は私の、“性処理係”。

(優しく、でも決して逃がさないように)

上司として、

た——っぷり、

可愛がってやるからな？

(ゆっくり長く)

——ずっとな♡